

スポーツ健康学研究科

I 2012年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015年度大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2015年度大学評価結果総評】</p> <p>・該当なし</p>
<p>【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）</p> <p>・該当なし</p>

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	
①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準 	
②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科長 ・研究科教授会主任 ・研究科教授会副主任 ・研究倫理委員会 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
① 研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>（～400字程度まで） ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>スポーツ指導法の確立に関連して、コーチング、バイオメカニクス、トレーニング学、メンタルトレーニングを専門とする教員を配置している。また、学校教育における資質・能力の形成については、スポーツ教育学、保健体育科教育法、発育発達学の観点から、実践経験豊かな教員を配置している。医学、健康体力学、健康心理学、公衆衛生学、スポーツ栄養学に関して理論的な知識を修得させるための教員を配置し、運動疫学、体力・機能測定評価に関する実践的な対応能力を身につけさせる演習の担当も、高い知識と技能を有する健康づくりの指導者を養成できる教員を配置している。スポーツを取り巻く、スポーツ社会そのものを巨視的な観点から分析する、マネジメント、マーケティング、政策等の分野において、多くの優れた研究業績を上げている教員だけでなく、スポーツの現場において長年ジャーナリズムやメディアの実務を経験してきた教員も配置している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院スポーツ健康学研究科 設置の主旨等を記載した書類 	
②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【特記事項】（～200字程度まで） ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。	

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【根拠資料】 ※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準	
②規程の運用は適切に行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】 ※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を箇条書きで記入。 ・専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。	
①研究科(専攻)内のFD活動は適切に行われていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 ・特にFDの為に組織は設けず、執行部が中心となり進めている。 【2015年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】 ※箇条書きで記入。 ・該当なし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
【研究活動活性化の取り組み】 ※箇条書きで記入。 ・現状では、各教員に任せている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科においては、スポーツ指導法の確立、学校教育における資質・能力の形成、医学・健康体力学などに関する理論的な知識修得、運動疫学に関する実践的な対応能力を身につけさせる演習など各分野の教育研究にあたり、専門性の高い教員、実戦経験豊かな教員、高い技能を有する教員を配置するなどの教員組織が備えられている点は評価される。また、スポーツ社会の分析を行うマーケティング、政策などの分野に、スポーツジャーナリズムやメディアの実務経験者を配置している点なども評価できる。

各種の規程は整備中であるが、運用については特に問題なく進んでいる。将来への備えの意味で残された規程の整備を続けて欲しい。FD活動については、本研究科は2016年度に開設されたばかりであり、その活動は今後委ねられる。少数教員集団である故の独自性を活かした活動に期待したい。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

スポーツ健康学分野における基礎的な素養を涵養し、また周辺領域の知識を身につけることを目的として設置された基礎科目には、修士論文作成に向けて、問題設定から実験・調査計画までのプロセスを重点的に取り上げる「研究デザイン・フィロソフィー」と、スポーツ健康学を修めるために必要となる知識を体系的に幅広く学ぶため、「心身科学」「自然科学」「人文社会科学」の各領域を、それぞれの分野の知見と研究成果を学ぶ「スポーツ健康学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」により、多様な学問領域を有するスポーツ健康学の基礎をしっかりと固める。

展開科目は、学びの方向性ごとに「スポーツコーチング」「ヘルスプロモーション」「スポーツマネジメント」の3つの科目群に分類しているが、学生が目標とする将来の職業を想定し、これに必要な科目が適切に学修できるように、履修モデルを提示している。この履修モデルは、養成人材像ごとに設定しており、身につく能力と想定される進路先を示していることから、学生が修了後の将来を見据えて科目を選択することになる。

修士論文執筆指導を行う研究指導科目は、2年間にわたって教授陣によるマンツーマン方式で実施する。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

基礎科目の必修科目である「研究デザイン・フィロソフィー」は、全専任教員によるオムニバス方式で開講され、研究倫理諸問題から学会発表や論文投稿までの研究プロセス、データ統計のスキル等、幅広く学び、「スポーツ健康学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は1つの学問領域としてのスポーツ健康学を心身科学、自然科学、人文社会科学をそれぞれ高い相互補完関係を持ちながら学修する。これらを基礎として、各院生の進路に合わせてスポーツコーチング科目群、ヘルスプロモーション科目群、スポーツマネジメント科目群からバランスよく履修することで、深い専門性とスポーツ健康学の幅広い領域をカバーする知識を身に付ける。また、2年間にわたって指導教授の下「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」によって修士論文作成に取り組む。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・該当なし

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

・該当なし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

展開科目において、基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えたより専門的な学びを発展させることを目的とした教育内容を提供している。その構成は、スポーツ・健康に関わる理論的知識を修得させる特論科目と重要な課題に対し実践的な対応能力を身につけさせる演習科目から構成される。なお、展開科目では、「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けないが、職業の分野ごとに履修モデルを提示し、学生はこれに準拠して展開科目を履修することで、修了後の進路に適した学びを修めることができるようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

海外の学会に参加することを勧めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)および(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学研究科修士課程において、「研究デザイン・フィロソフィー」が専任教員全員が参加するオムニバス方式で開講され、学会発表や論文投稿までの研究プロセスを学ばせる点で、「スポーツ健康学特論」では、心身科学、自然科学、人文社会科学の学際的融合領域の学習を提供している点などユニークな教育が行われている点は高く評価される。</p> <p>また、院生の進路に合わせた履修モデルが設定されており、スポーツコーチング科目群、ヘルスプロモーション科目群、スポーツマネジメント科目群という3つの科目群を設けている。バランスの良い専門教育を提供し、将来の職業選択に役立たせようとする実践的な教育は高く評価される。</p> <p>今後コースワーク、リサーチワークの適切な科目設定と各履修モデルとの対応付など整備を進めていって欲しい。</p>
--

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションの際に、研究科長が個別に指導した。 ・担当指導教員が確認を行った。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】※箇条書きで記入(ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す(学位取得までのロードマップの明示等))。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想発表会、計画発表会、中間発表会および口述試験を軸にした修了までのスケジュールを明示。 <p>【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい いいえ
<p>(~400字程度まで)※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>基本的に週に1回以上、主指導教員による指導が行うことにしており、副指導教員は主指導教員の研究指導の補助にあたる。また、担当となっていない教員にも必要に応じて助言が求められることができる。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置準備委員会によって十分に検証した。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

・特になし	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・今後、行うことにしている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A B C
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・現段階では未実施。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を研究科（専攻）ごとに定期的に行っていますか。	A B C
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・現段階では未実施。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A B C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・現段階では未実施。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科では新入生オリエンテーションに始まり、構想発表会、計画発表会、中間報告会および口述試験と続く研究指導は適切と思われ高く評価される。今後、教育成果の検証、学生による授業改善アンケートなどを適切に実施しながら改善が進められることに期待したい。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】	
スポーツ健康の分野において現代社会が期待する多面的な高度専門的職業人として活躍できる見込みがあり、幅広いスポーツ・健康に関連する最先端の課題と理論および基礎的な研究力を修得した者に学位を授与する。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A B C
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。	

<p>・現段階では未実施。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</p>	
①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・該当なし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>1年次秋の構想発表会、2年次春の計画発表会、2年次秋の中間発表会の3回の発表会において、全専任教員からの評価・指導を実施し、最終的に口述試験によって修士の学位にふさわしい研究のみを合格とする。</p>	
④学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・該当なし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1) および(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学研究科は2016年度に開設されたところであり、成果を評価する段階にはない。学位授与基準の設定、学生への周知徹底など今後の取組みに期待する。</p>

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学生の受け入れ方針】</p> <p>広範なスポーツ健康学に関わる基礎知識と実践力を兼ね備えた、社会のスポーツ健康学分野における多様なシーンにおいて即戦力として活躍できる高度専門的職業人の養成を目指していることから、以下のような人材を求めている。</p> <p>(1) スポーツ健康学の社会的な諸課題の解決に強い関心と行動力を有する者。</p> <p>(2) 理論と実践を通じた研究活動を展開し、社会に還元する意欲のある者。</p> <p>(3) 法政大学の自由な学問的伝統の中で、様々な学問域と連携を図りながら高度な研究を展開する意志と能力を有する者。</p>
<p>5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p>

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。 2015 年度入試においては、設置認可後からから学生募集となったため十分な周知ができず、定員と同数の 10 名の応募者しか得られなかった。そして、入学試験の結果、本研究科が掲げる教育研究水準に満たないと判断した受験者を不合格としたため、入学者が 7 人となった。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。 ・教授会において、2017 年度入試に向けて広報の方法および入学試験の方法を議論した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科の 2016 年度入試については、十分な学生募集期間を設けることが出来なかったなどの理由から、応募者が 10 名 (合格者 7 名) にとどまったが、次年度以降の定員獲得に向けた活動を強化する必要がある。

6 学生支援

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①研究科 (専攻) として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。 外国人留学生は 1 名 (中国人) であり、担当教員および研究科長が中心となって対応している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科では、初年度、外国人留学生 1 名（中国）の入学があったが、担当教員および研究科長が中心になり適切に対応されたと思われる。今後、留学生の増加も見込まれることから、組織的な支援体制の整備が望まれる。

7 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
【2015 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。 ・該当なし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科も学部同様に質保証活動体制の整備に期待したい。

【大学評価総評】

本スポーツ健康学研究科は、2016 年度に開設されたばかりで、各種の取組みが順調にスタートしたところである。学部における実践的教育は順調に進行し、成果をあげており、研究科も同様にスポーツ界、スポーツ関連業界、学校教育界で活躍する人材の育成に大きな成果をあげられることを期待をする。